

# LUCERNO



(Bulteno de la Japana Sekcio de ILEI) 創刊号(n-ro 1) oktobro 2010

## 新生 ILEI 日本支部、活動スタート

La Revuo Orienta 2010 年 3 月号でお知らせしましたように、従来からあった教職員エスペラント協議会 (ALE: Asocio de Lernejoj Esperantistoj) と ILEI(Internacia Ligo de Esperantistaj Instruistoj)の日本支部が合流して、教育関連分野での活動を以前にも増して活発にしていこうということで、新たに出発したのが、新生の ILEI-JP です。

ILEI-JP の活動で、最も大事で大きい部分は、エスペラントを教えることと、エスペラントを教える人を増やす、の 2 点だと思います。それには、現在教えている人、教えたいと考えている人、指導法を知りたいと思っている人、エスペラント教育に興味がある人などがいっしょになって活動していくことだと思います。子どもたちの交流や、アジアの ILEI 支部との交流、協力なども行っていきたいと考えています。

学校教育にエスペラントを導入させる取り組みは、ALE が中心になって、総合学習の盛り上がりとともにある程度の成果を得ることができました。しかし、多くは出前学習として、1 回限りの場合が多く、本格的なエスペラントの学習を学校で行うところまでは、まだまだ道は遠いです。ですが、海外の事例を知り、日本での可能性について私たち自身がちゃんと研究していく必要はあります。このような活動に興味・関心のある方は、ぜひ ILEI-JP にご参加ください。

代表 石川智恵子

### ILEI 日本支部 組織と活動 (2010 年 9 月 11 日の総会で承認)

#### 新役員

代表：石川智恵子 副代表：田島万祐子 事務局：衣笠弘志 会計：石野昌代  
機関紙：松木義信・堀泰雄 現在の会員 19 名

#### 活動方針

- ①エスペラントを学校で教えることの意義をきちんとした形で世間にアピールする
- ②エスペラントを教える人を育てる機会をつくる
- ③ILEI 各支部 (日本・中国・韓国) の協力体制をつくる  
「アジア人にとってのエスペラント」という視点でエスペラントを活用する
- ④Malkovru Esperanton の日本語訳を完成させる
- ⑤機関紙 LUCERNO を発行する

会員種別：正会員 (紙版の IPR 購読者) ネット会員 (ネット上で IPR を購読)

会費：正会員 18 ユーロ ネット会員 8 ユーロ (レートによって変動あり)

(2010 年度は 1 ユーロ 135 円換算で、紙版 2700 円/ネット版 1300 円+国内諸経費 2~300 円)

会費の中味：★ILEI 機関誌 "Internacia Pedagogia Revuo (IPR)A4 版 44 頁" 年間 4 冊購読

(3 月末にまとめて送金するため該年度の 2 号から翌年 1 号まで)

★日本国内での運営諸経費

★日本支部会員として会員名簿

★(機関紙の紙版・メール版・臨時版などによる)連絡や情報の受け取り

## おもしろがって大喜びで学べるエスペラントのために－4つの心得のすすめ

木村護郎

” En Niigata neĝo estas ĉu?” これは、日本人の使いがちなエスペラントの特徴について書かれた記事にあげられた例です。記事では、「新潟は雪ですか」の構文がすけてみえるようなこの文は、” Tute bona frazo klara kaj ĝusta. Tamen iom stranga pro la vortvico.” (R0 2009.5, p.28) と評されています。みなさんはこの文、どう評価しますか？

周知のように、エスペラントはいわゆる民族語とは異なる特徴をもつ言語です。たとえば「文法」の持つ意味が民族語とエスペラントでは違います。民族語では文法規則を覚えるだけでは「正しい」表現はつくれません。私は仕事でドイツ語を教えています。学習者が（学んだ文法どおりに）つくった文を、「こういう言い方はしないものだ」とか「こういう表現が一般的だ」という以外に説明のしようのない慣習的な理由によって訂正してしまうことがしばしばあります。民族語は慣用による規範にみちているわけです。このような慣用があっても問題がないのは、民族語のばあい、基本的には小さい子どもが親をはじめ周りで話している人のことばをまねしながら何年もかけてじっくり覚えていくからです。

でも、別の母語（第一言語）を持つ人が意識的に学ぶことを旨とするエスペラントのばあい、恣意的な慣用にしばられたのではたまりません。民族語と異なるエスペラントの特徴を田中克彦氏は「体系性が規範を破って進む！」という表現で明快に表しています（『エスペラント』岩波新書 2007年、71-73 ページ）。つまりエスペラントでは、ある表現が一般的であるかどうかで表現の「正しさ」が決まるのではなく、文法体系の可能性を生かした造語や文章表現が「正しい」のです。田中氏は次のように言います。

「こどもたちにエスペラントを教えれば、かれらはおもしろがって大喜びでやるにちがいない。理由のない「規範」がなくてせいせいするからだ。」(73 ページ)

おもしろがって大喜びで学び使えるエスペラントとなるためには、教える側も学ぶ側も、英語や中国語などを学ぶのとはちがった態度で教える／学ぶことが大切になってきます。そこで参考になると思うのが、ヨーロッパ人の使うエスペラント表現（まさに慣用による規範！）ばかりを正しいとみなす姿勢に疑問をもって書かれた次のような、古くて新しい提案です。

「Esp. の基礎を破壊しない限り、西方[八方]の Esp-isto との理解が妨げられない限り、遠慮なく我々に便利な、やさしい言い方をとる[ことにしたらどうか。]」（イシガ・オサム, R0 1942.7, p.18)

この観点によれば、冒頭にあげた「日本的な」エスペラント表現の評価は、” Iom stranga pro la vortvico. Tamen tute bona frazo klara kaj ĝusta.” となるでしょう。この観点をエスペラント教育で実践するためには何が必要かを考えてみたのが下にあげた4つの「心得」です。このような自由な姿勢をもてば、エスペラントを教えたり学んだりすることが楽しくなるだけでなく、エスペラントの創造性が存分に発揮され、さらに豊かな言語になっていくと思います。

経験者が初心者の新鮮な発想から学べる、というのはほかの言語の学習ではけっしてみられない、エスペラントならではの画期的なことでしょう。今後めざすべきは、エスペラント教育を民族語教育のようにしてしまうことではないでしょう。むしろ逆に、民際的な相互交流が進む今日、学習者にも開かれた言語になることが求められている諸民族語の教育に、創造的な表現を肯定的にうけとめるエスペラントのあり方をモデルとして提示することが、異言語教育へのエスペラントの一つの貢献だと考えています。

## エスペラント教育の心得 4 カ条

- I エスペラントの初心者は
- 民族語を学ぶ場合とは異なり、言語の慣用や標準的とされる表現をうのみにしないこと。
  - エスペラントの造語法を使って自分で表現を工夫しよう。  
(修正されたら、なんでだめなのか確認しよう。)
- II エスペラントの経験者・指導者は
- 「ふつうはそう言わない」からといって初心者を訂正しないこと。
  - 初心者が自分のもち札で表現を工夫するよううながそう。  
(なんかへんな言い方だと思っても我慢しよう。)

追記：「日本的な」（と思われる）エスペラントの造語や表現など、なんか聞きなれないけど、はっきりまちがっているともいえないような語彙、表現や文の例を集めています。そのような例をみつけたらお知らせください。お礼に、用例集を進呈させていただきます。連絡先: goro@sfc.keio.ac.jp

### ~~~~~ ~~~~~ ~~~~~ ~~~~~ ~~~~~

## Somera seminario de Esperanto-instruado en Taiyuan, Ĉinio

Ĉina sekcio de ILEI (Internacia Ligo de Esperantistaj Instruistoj) okazigis someran seminarion kun ampleksaj programeroj en la urbo Taiyuan, Ŝanxi-provinco, de la 1a ĝis la 11a de aŭgusto. S-ino Fujimoto Rituko kaj mi partoprenis la aranĝon, kaj bonŝance gvidis kelkajn kursojn por lernantoj, kiuj varias inter elementlernejoj kaj plenkreskuloj, plejparte universitataj studentoj.

Kial ĉeestis en tiu seminario elementlernejoj? Ĉar en Baiyangshujie Lernejo, ĉi-foja seminariejo, daŭras iu eksperimento ekde aprilo, 2008 kaj ili lernas Esperanton kiel oficialan lernoobjekton. Estro de tiu lernejo, s-ro Wei Yubin, mem estante Esperantisto, decidis okazigi Esperanto-kurson kiel devigan programon por konfirmi propedeŭtikan efikon de Esperanto por ĉinaj infanoj. La eksperimento estas tio, ke oni instruas Esperanton dum ses jaroj kaj vidos kian efikon oni havos en lernado de aliaj eŭropaj lingvoj. Mi tre interesiĝas pri la rezulto ĉar ni japanoj ankaŭ havas similan problemon en lingvolernado. Nun en tiu lernejo 180 lernantoj (po unu klaso en la 1a, 2a kaj 3a lernojaro) lernas Esperanton kaj ĝuas oftajn vizitojn de multaj esperantistoj enlandaj kaj eksterlandaj. Dek el dek kvin studentoj venis el Interna Mongolio kaj aliaj el diversaj lokoj de Ĉinio. Mirinda estis bunteco, riĉeco kaj longeco de la kursoj por plenkreskuloj. Dum la tuta seminariperiodo, krom du posttagmezoj kiam ni ekskursis, preskaŭ ĉiŝate, posttagmeze kaj vespere okazis kursoj kaj prelegoj gviditaj de ses gvidantoj el Usono (du), Koreio, Danio kaj Japanio (du) kaj de ĉinaj gvidantoj, inter kiuj estis fama verkisto/tradukisto, s-ro Li Ŝijun, alinome Laŭlum. La lernantoj estis tre viglaj kaj diligentaj, kaj ili ĉiam amike alparolis al ni.

S-ino Fujimoto kaj mi havis tre valorajn kaj interesajn spertojn, ke ni gvidis alilandajn lernantojn tute esperante.

Eĉ elementlernejoj ŝajne ĝuis nian gvidadon.



Venontan someron ĉina sekcio de ILEI okazigos la saman seminarion paralele kun la unua ILEI-seminario de Ĉinio, Koreio kaj Japanio en Tianjin. Tiuj, kiuj interesiĝas pri tiuj aranĝoj, kontaktu min ĉe japana sekcio de ILEI. ([isksanjo@ff.e-masnion.com](mailto:isksanjo@ff.e-masnion.com))

(この原稿は RO 誌 10 月号に掲載予定でしたが、諸般の事情で掲載されず、当紙に掲載しました。)

ISIKAWA Tieko

## 中国の教育者セミナーに参加して

藤本律子 (兵庫)

8月1日～11日、中国の山西省太原市において開催された国際エスペ란チスト教育者連盟 (ILEI) 中国支部の第2回セミナーに参加した。会場は同市の柏楊樹街 (Bai-yang-shu-jie) 小学校。参加者59名のうち、外国からは6名 (アメリカ、デンマーク、韓国、日本) で、日本からは ILEI 日本支部代表の石川智恵子さんと私が参加した。

会場の柏楊樹街小学校は生徒数1400名、6学年24学級の市立校である。45歳の校長 Wei Yubin さんが2008年、エスペラントの授業を必修教科として導入。毎年1学級が編成され、現在1～3学年180名の生徒が週2時間のエスペラント授業を受けている。エスペラントの予備教育的効果を確認するための研究プロジェクトで、6年間継続される。

セミナーでは、20名の小学生と中国各地の学生17名、さらに各地の教師や一般参加者のために、各国の教育経験者が連日、公開授業を実施した。



実際にエスペラントの授業をするのは14時限分ですが、「トライアルデー」で1日エスペラント活動 (外国人エスペ란チストとの交流+学習) をし、12月半ばの学習成果発表会で、活動の発表をするという計画になっています。

たまたま私が授業を担当することになり、「直接教授法で学ぶエスペラント」を主教材として学習が進んでいます。授業開始にあたって、[edukado.net](http://edukado.net) にお知らせを出し、生徒たちに励ましのメッセージをお願いしたところ、20カ国近くからメールも含めて約40通近い絵葉書やカードが学校に届きました。これには、担当の英語科の先生だけでなく、校長先生や副校長先生もとても驚き、感動しています。生徒たちはもちろんです。学習成果発表会などで利用できたらいいなと考えています。12月半ばに講座が終了した後、きちんとした報告を書くつもりです。

印象的だったのは、アメリカの Ronald Glossop さんの毎朝50分の授業と Li Shijun (Laŭlum) さんの講演と授業。そしてセミナー責任者の南昌大学教授の Gong Xiaofeng さんの行動力。さらに、韓国の Jang Jeong-ryeol (Ombro) さん、デンマークの Peter Weide さん、南京在住のアメリカ人 Jano Klark さん、そして私たち2人も、それぞれに授業や講演を担当した。私も大阪府立池田北高校の「国際理解」授業の様子を報告した。生徒の保護者、教育関係者を対象にした一般公開日には約100人が参観。各国のエスペラント教育の事情等も紹介された。

来年の8月には、天津市で第3回が開催される予定で、同時に日中韓3か国共催セミナーの計画も進んでいる。講習会の講師も含めて、教育経験者の国境を越えての経験交流を深める時機を迎えているようである。多くの方々の参加が望まれる。

(La Movado N-ro716 (oktobro 2010) より転載)

### 埼玉大学教育学部附属中学校での エスペラント授業について

石川智恵子

さいたま市にある上記中学校で、2学期の総合学習の一環である「国際交流講座」でエスペラント授業が始まりました。これは、埼玉大学で過去5年間エスペラントの授業を行っている佐々木照央さんが中学の校長先生に働きかけをされ、実現に至ったものです。